

実技試験 準備品リスト

13 【随時3級 構造物鉄工作業】

「実技試験問題に『支給材料』『使用工具等』と書かれているもののうち、持参が必須のものの案内です」

千葉県での受検では下記のことを人数分必ず持参して下さい。

(1名分)

○材料

更新日: 2025.3.5

チェック欄	品名	寸法又は規格	数量	備考
	等辺山形鋼	SS400 50mm×50mm×6mm 長さ450mm	1	
	鋼板	SS400 9mm×300mm×300mm	1	
	六角ボルト	並目 M16×35	4	
	六角ナット	1種並目M16	4	

○工具等

チェック欄	品名	寸法又は規格	数量	備考
	定盤または作業用鋼板	使用面積1,000×1,000mm程度 鋼板の場合は、厚さ10mm程度	1	
	ボール盤	φ17の穴あけができるもの	1	共用可 数値制御式ボール盤及び磁気 ボール盤は使用不可 切削油使用可
	横万力	呼び寸法 あご幅100～150mm程度	1	
	作業台(万力台)		1	
	ガス切断装置	火口一番程度	一式	自動ガス切断機は使用不可 加熱用も兼ねる
	アーク溶接装置 又は 半自動アーク溶接装置		一式	アーク溶接装置使用の場合は、電撃防止装 置付きのもの
	被覆アーク溶接棒	JIS Z 3211軟鋼用被覆アーク溶接棒 E4319相当品 φ3.2	3	
	炭酸ガス溶接ソリッドワイヤ	JIS Z 3312 YGW11又はYGW12 相当品 φ1.2	一式	半自動アーク溶接装置使用の場合
	ガス切断用台		1	切断用ガイドローラ又は当て金付き
	火口掃除針		1	
	穴あけ用材料支持台		1	
	ドリル	φ17のみ	適宜	
	スリーブ及びソケット		1	
	石筆		1	
	水溶器及びはし		各1	冷却水用
	切削用油差し	切削油を含む(ただし、水溶性のもの)	1	ボール盤用持参も可
	溶接用保護面		一式	JIS T8142:2003相当品。ただし、自動遮光 面式(液晶式等)は不可
	ハンマ		適宜	ポンチ打ち用 組立作業用
	けがき針		1	
	ポンチ		適宜	目打ち用 心立て用 ※『オートポンチ』等として市販されているも のは使用不可。ハンマで施工すること
	やすり	平 荒目・中目 呼び寸法200～300mm	各1	
	たがね	平	1	
	スパナ又はモンキレンチ	M16六角ボルトの締め付けができるもの	2	
	ドリフトピン	φ17用	4	
	ワイヤブラシ		1	
	金属製直尺	300mm程度	1	
	スコヤ	平	1	さしがねでも可
	けがき用コンパス	200～300mm	1	
	筆記用具	鉛筆、消しゴム	一式	
	作業服等		一式	保護帽、安全靴、足カバーを含む
	保護めがね		1	JIS T8147:2016相当品
	しゃ光めがね		1	JIS T8141:2021相当品(ガス溶接・切断作 業用)
	防じんマスク		1	溶接作業用
	手袋		1組以上	ガス切断用・溶接用保護手袋及び一般作業 用手袋 なお一般作業用手袋は軍手でも可
	資格証等	ガス溶接作業主任者免許証、 ガス溶接技能講習修了証	1	
	安全又は衛生の特別教育修了証 明書又は自己申告書			修了証明書は写しも可
	飲料		適宜	熱中症対策、水分補給用
	受検票		1	コピーしたものは不可
	実技問題	当協会から交付した原本 ※試験結果が出るまでは処分しないこと	1	コピーしたものは不可

※既定の寸法どおりのものをお持ちください。また必要に応じて予備も持参してください。

随時 2・3 級鉄工(構造物鉄工作業)

受検企業担当者様

千葉県職業能力開発協会
技能検定課 外国人技能実習生担当

E-mail:renraku@chivada.or.jp

TEL:043-296-1150

千葉県において受検される場合、『実技試験実施要領』の「1 試験場で準備するもの」(P.5～)に書かれている【支給材料】と【※】印のついている材料・道具はすべて受検者(受検企業・監理団体)にご用意いただいています。寸法、規格、数量は書かれているとおりにご用意下さい。

当日、試験環境が整っていない場合、試験を実施しないこともあります。

検定委員より実施要領に書かれている試験環境が整っていない事例が多いとの指摘があり、実際、公平性確保のため、試験を実施しなかった例も報告されています。準備する際は下記の件を理解した上で進めるようお願いいたします。

○強く指摘されているのは下記の3点です。

1、ボール盤作業の支持拘束治具の準備

→手で補助して支持することは不可能です。対応できる工具等を用意すること。

2、規定のやすりの準備 (平 荒目・中目 呼び寸法 200～300mm 各1)

→規定通りのやすりでないために正確な研磨作業ができない事例が多発。

3、横万力・作業台(万力台)の準備

→用意できないのであれば、C型クランプで鋼材と作業台を固定し、やすり作業を出来るようにすること。

試験実施の可否に関わる事柄です。充分注意して下さい。

また、以下のこともよく見受けられるとの指摘があります。

- ・試験会場が狭くて暗い(けがき作業がやりづらい)。
- ・被覆アーク溶接機に電撃防止装置がついていない。
- ・溶接用ワイヤや被覆アーク溶接棒が規格品でない。
- ・ガス切断用台はあるが、鋼板及びアングル切断用の治具が準備できていない。
- ・ドリルの予備がなく、破損したらそれ以後の受検者は試験が不可能になる。
- ・水容器と火ばし、およびウエスが準備できていない。

繰り返しますが、試験環境が整わない場合、試験実施しないことがあります。

試験日程の再調整が2ヶ月程度先になることは十分有り得ますので、在留資格の変更に影響を与える可能性は少なくありません。

受検者がより良い環境で試験に臨めるようご協力をお願いいたします。